

# 2018年度第2四半期決算 会社説明会



2018年11月5日  
四国電力株式会社

## 本日のテーマ

1. 2018年度第2四半期決算 ハイライト
2. 2018年度の重点課題への取り組み状況

# 1. 2018年度第2四半期決算 ハイライト

---

## 2018年度第2四半期決算ハイライト

【連結】

(億円)

	実績	前年差	ポイント
売上高	3,587	▲ 39	小売および卸販売電力量の減少等
営業費用	3,471	165	伊方発電所3号機の停止や燃料価格の上昇等による需給関連費（燃料費＋購入電力料）の増加等
営業利益	115	▲ 205	—
経常利益	121	▲ 193	—
親会社株主に帰属する 純利益	77	▲ 149	—

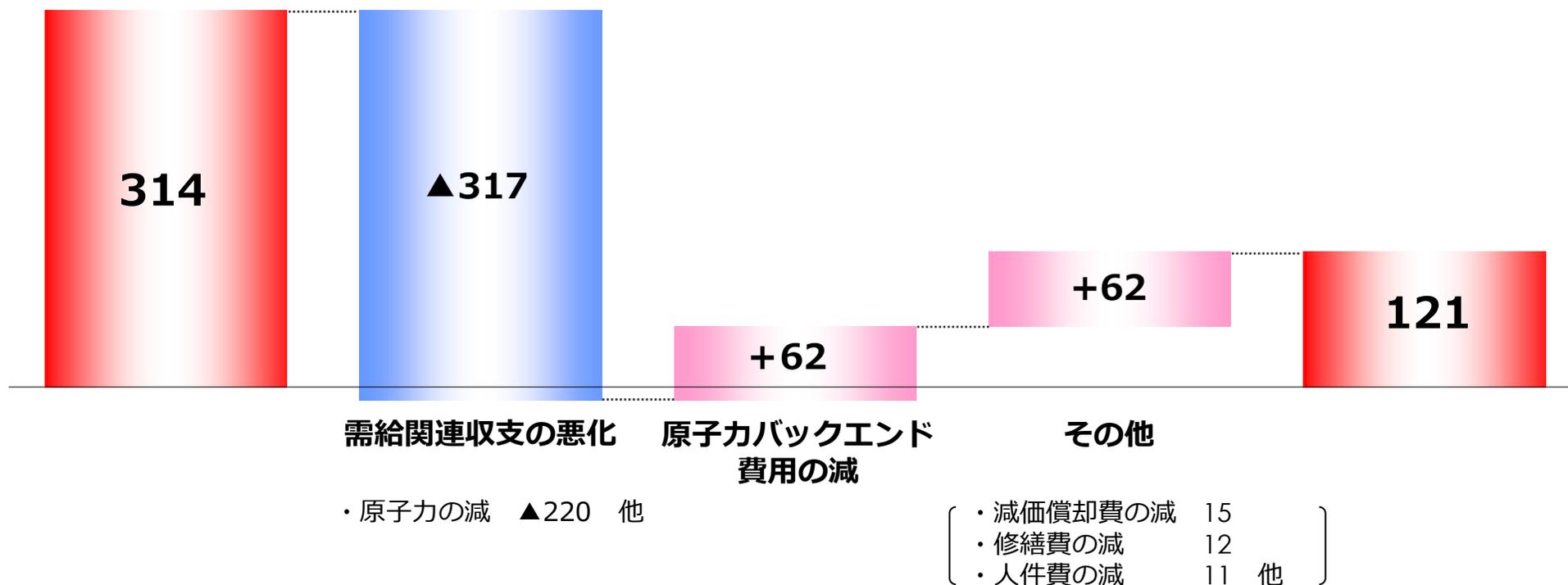
# 経常利益 前年度との差異内訳

【連結】

(単位：億円)

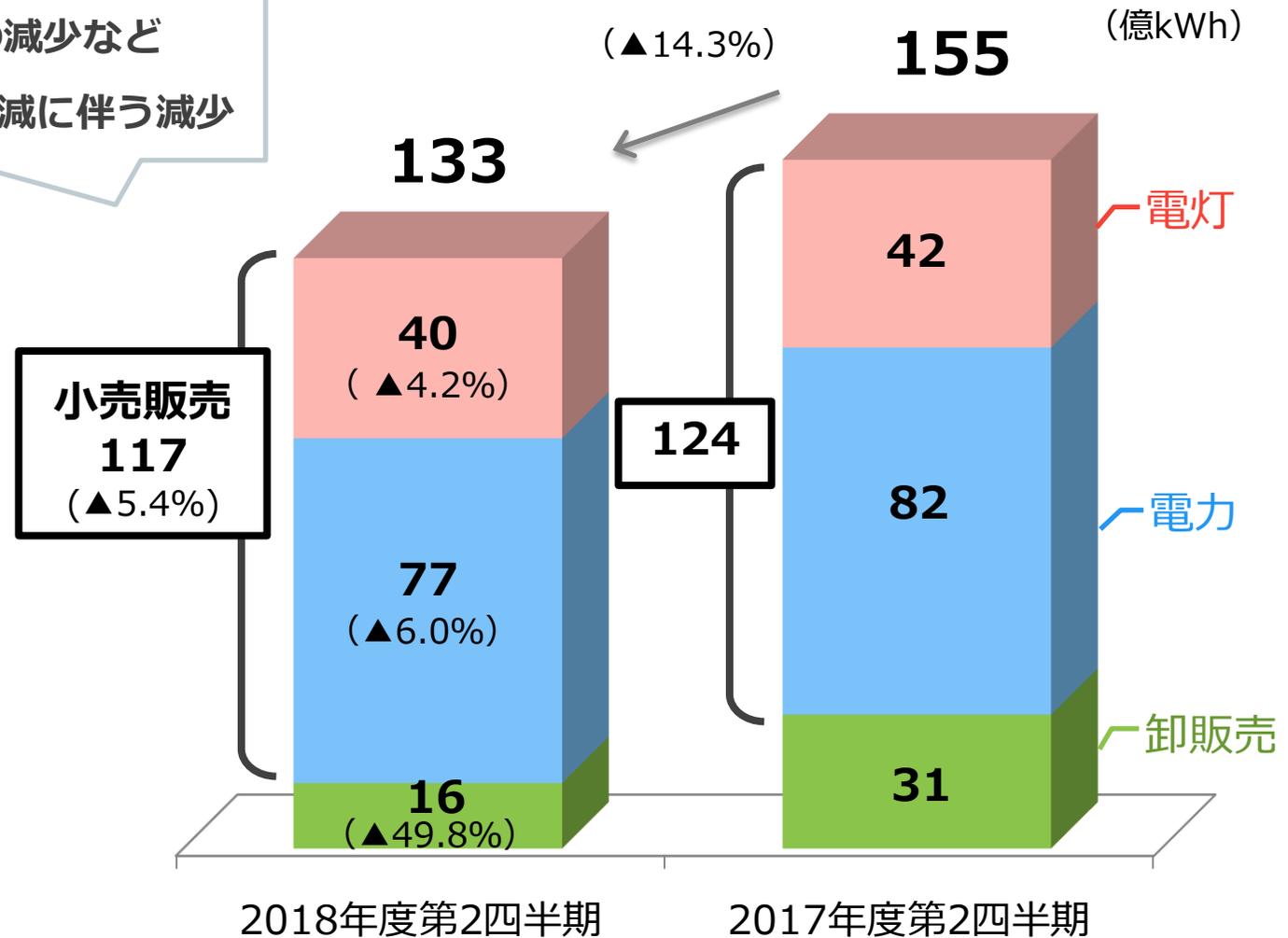
2017年度  
第2四半期

2018年度  
第2四半期



# 総販売電力量

- 小売販売 契約電力の減少など
- 卸販売 供給余力の減に伴う減少



※ ( ) 内: 対前年伸び率

<平均気温>

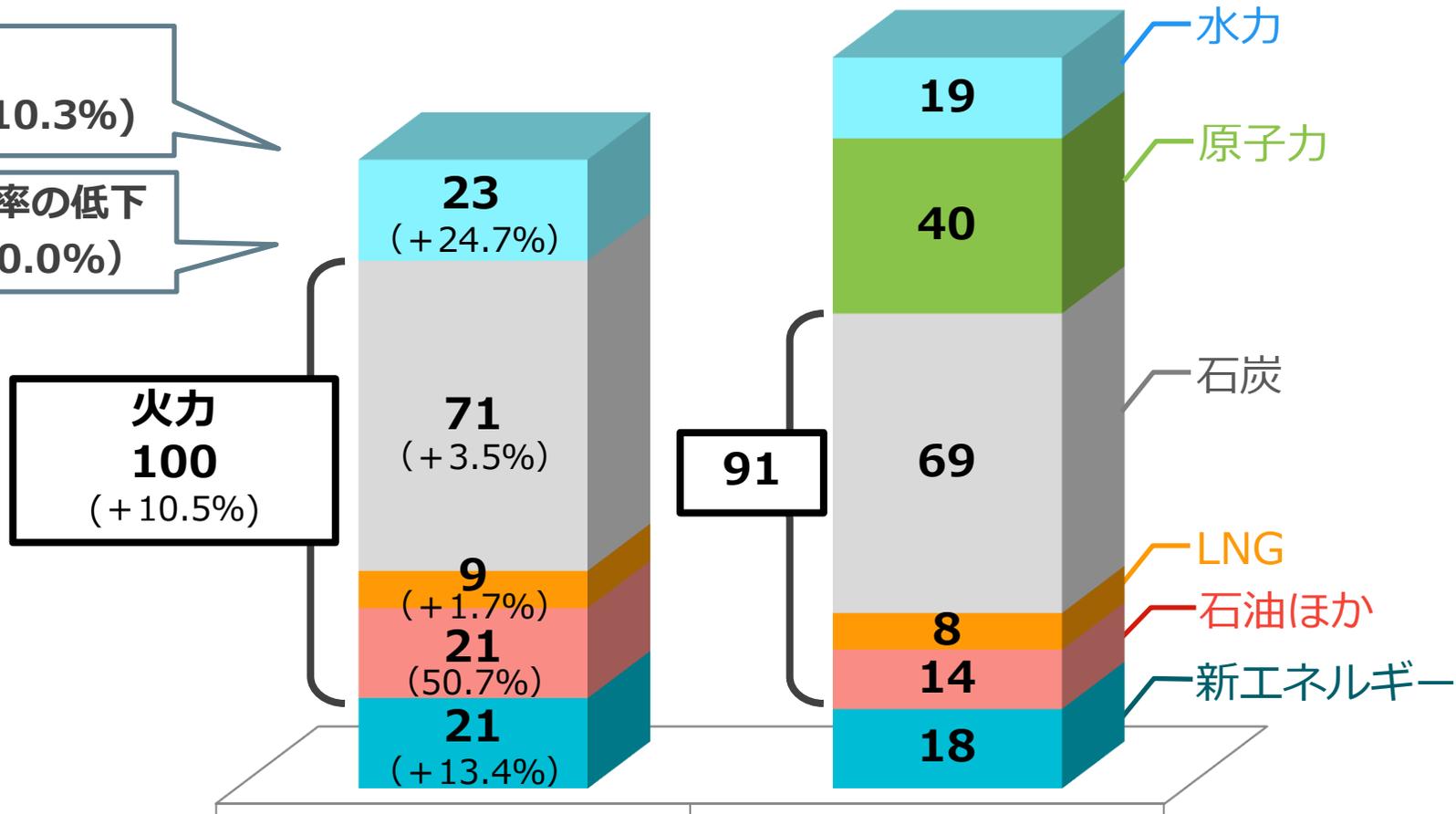
夏季 6-9月

26.3 °C ↑

26.0 °C

(億kWh)

- 出水率の上昇  
(88.6% → 110.3%)
- 伊方3号機利用率の低下  
(102.7% → 0.0%)



2018年度第2四半期

2017年度第2四半期

※ ( ) 内: 対前年伸び率

# キャッシュ・フロー

(注) プラスは収入、▲は支出 (億円)

		2018年度 第2四半期	2017年度 第2四半期	前年差
営業 キャッシュ・フロー	経常利益	121	314	
	減価償却費	319	331	
	その他	▲ 617	▲ 73	
	計	▲ 175	571	▲ 746
投資 キャッシュ・フロー	設備投資	▲ 391	▲ 358	
	投融資	▲ 25	▲ 25	
	計	▲ 416	▲ 383	▲ 33
フリー・キャッシュ・フロー		▲ 592	188	▲ 780
財務 キャッシュ・フロー	社債・借入金削減額	288	▲ 345	
	配当金支払額	▲ 31	▲ 41	
	計	254	▲ 386	
手元資金の増減額		▲ 338	▲ 199	

# 財政状態

(億円)

	2018年度 第2四半期末	2017年度末	増 減
資 産	13,427	13,012	125
（うち事業用資産）	(8,246)	(8,221)	( 25)
（うち核燃料）	(1,232)	(1,191)	( 41)
（うち投資等）	(3,947)	(3,889)	( 58)
負 債	10,246	10,176	70
（うち社債・借入金）	(7,120)	(6,832)	( 288)
（うち未払費用等）	(3,125)	(3,344)	(▲ 219)
純 資 産	3,180	3,125	55
（うち利益剰余金）	(1,641)	(1,598)	( 43)
（うちその他の包括利益累計額）	( 126)	( 131)	(▲ 5)
自己資本比率	23.5%	23.5%	—

# 2018年度業績予想

【連結】

(億円、%)

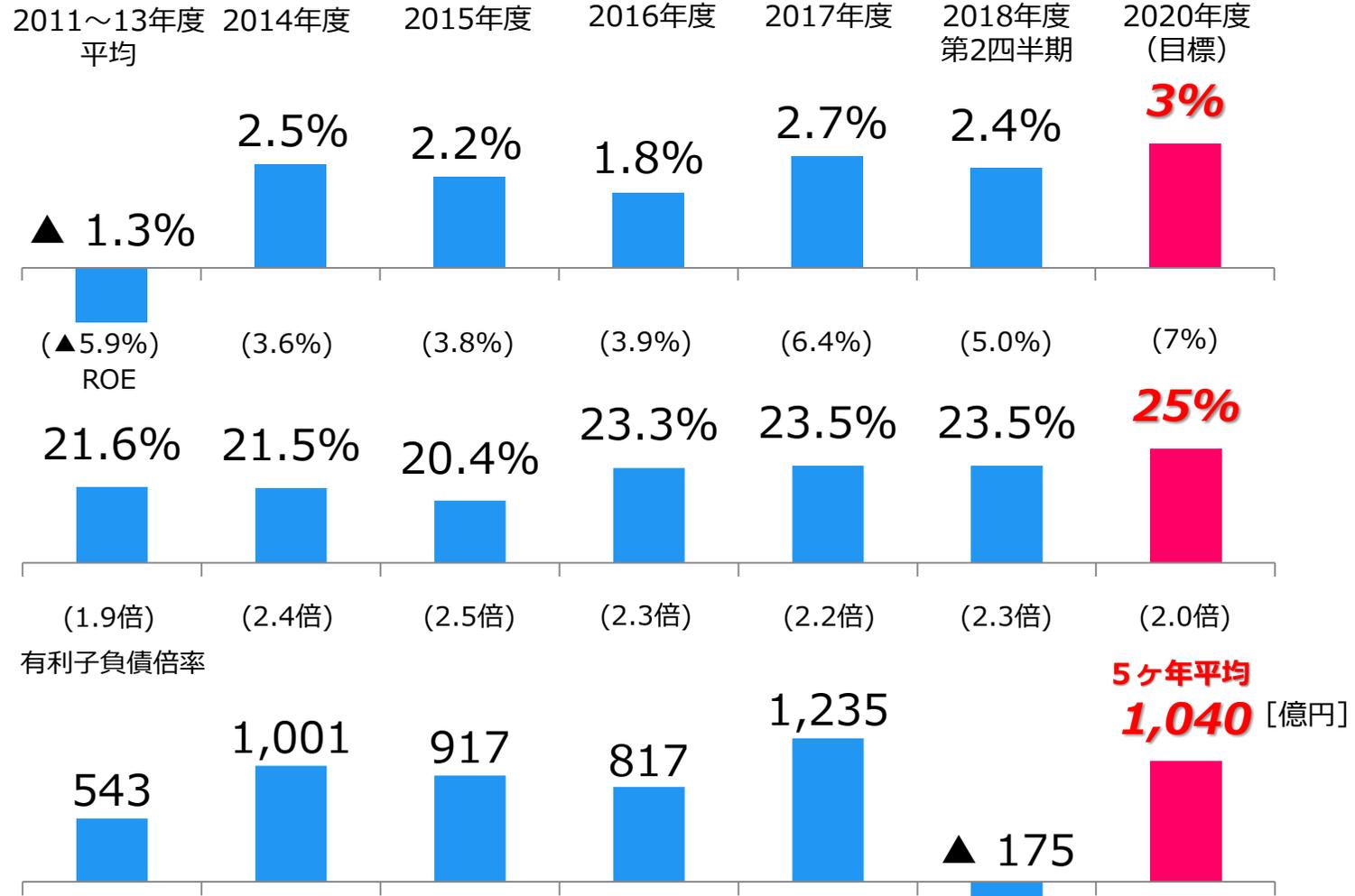
	2018年度 (予想)	2017年度	前年差	伸び率
売上高	7,300	7,317	▲17	▲0.2
営業利益	225	292	▲67	▲23.1
経常利益	220	280	▲60	▲21.4
親会社株主に帰属する 当期純利益	150	196	▲46	▲23.8
1株当たり当期純利益	73円	96円	▲23円	—

# 経営目標の達成に向けた進捗状況

## ■ 経営目標（連結）

原子力の全台停止に伴う  
経営課題の克服

持続的成長を目指した  
**収益力の変革**



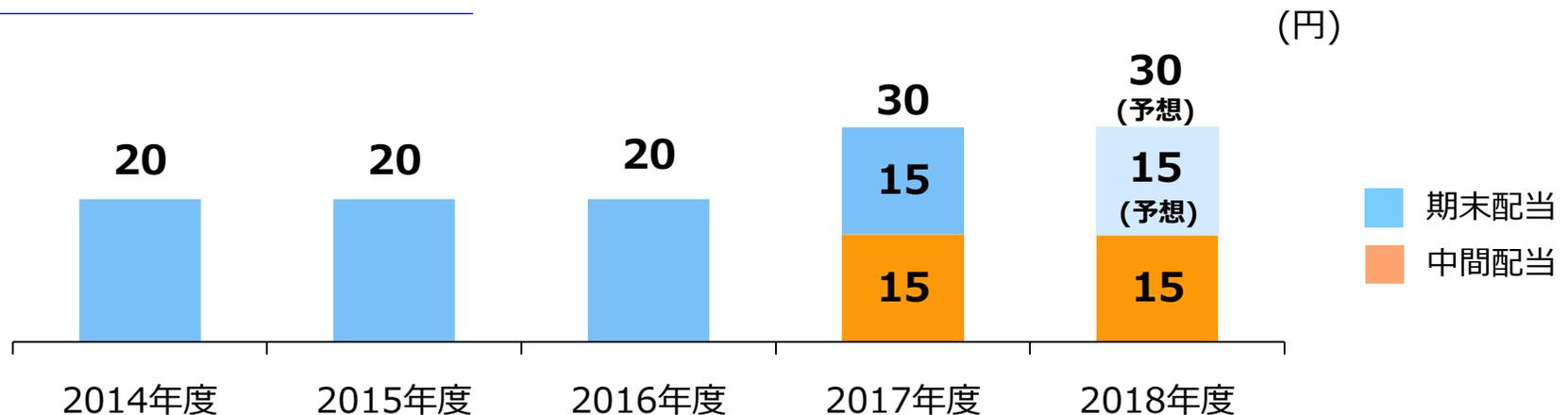
※ ROAは「事業利益（経常利益＋支払利息）÷総資産（期首・期末平均）」にて算定

# 2018年度配当予想

## 1株当たり配当金

	2018年度	2017年度
中間配当	15円	15円
期末配当	15円 (予想)	15円
合計	30円 (予想)	30円

## 1株当たり配当金の推移



# 株主還元目標

## 基本方針

「安定的な配当の実施」を株主還元方針の基本とし  
配当水準については、業績水準や財務状況、中長期的な事業環境  
などを総合的に勘案のうえ判断してまいります。

## 目指すべき目標

**1株当たり配当額** **50円**

伊方3号機の安全・安定稼働による事業運営の正常化と  
安定的な収益の確保等を前提に、  
1株当たり配当額50円の実現を目指してまいります。

## 2. 2018年度の重点課題への取り組み状況

---

# 2018年度の重点課題

1

**電力販売のさらなる強化**

2

**徹底した事業効率の改善**

3

**電気事業以外の分野における収益源の創出・拡充**

# 電力販売のさらなる強化

## お客さまとの結びつきの深化

お得感のある  
料金プラン

当社の顔が見える  
付加価値サービス

収益機会の拡大

[ 四国域内へのアプローチ ]

[ 四国域外へのアプローチ ]

価格面

非価格面



料金プランの  
さらなる充実



見守り・駆けつけなど  
家庭向けサービスの充実

(低圧契約)  
家庭等のお客さま



料金連動ポイントの  
開始



無料会員制  
Webサービスの活用



首都圏・関西圏での  
電力販売の拡大

(高圧・特別高圧契約)  
法人のお客さま



最適な料金プラン  
の提案



ニーズに応じた  
ソリューションサービス  
の提供



他社販売・取引所販売  
による収益機会の拡大



戦略的な  
アカウント営業

# 四国エリアのスイッチング率

(販売電力量ベース、2018年7月時点)

	四国エリア	(参考) 全国平均
低圧	6.0 %	11.2 %
特別高圧・高圧	14.6 %	17.5 %
<b>全体</b>	<b>11.6 %</b>	<b>15.5 %</b>

「電力・ガス取引監視等委員会公表 電力取引報」より算定

# 新たな料金プランの導入（四国域内）

## ご家庭向けの主な料金プラン

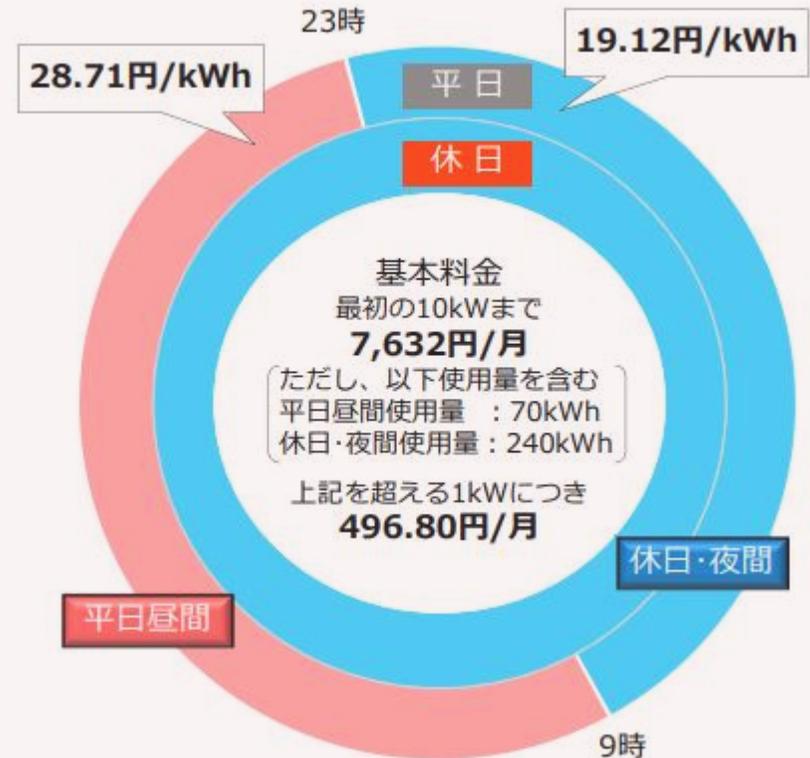
標準のお客さま	<b>おトクeプラン</b> 従量電灯Aと比べて、 <u>300kWhを超える部分の単価を割安に設定したおトクな料金プラン。</u>
電化住宅のお客さま	<b>でんかeプラン</b> <b>New!! (2018年10月1日~)</b> 割安な料金単価を設定している夜間・休日に電気のご使用をシフトすることにより、 <u>おトクにご利用いただける料金プラン。</u> IH・エコキュート等のご使用により、さらにおトクな割引が適用。
環境に関心のあるお客さま	<b>再エネプレミアムプラン</b> <b>New!! (2018年10月1日~)</b> 従量電灯Aよりも割高になるものの、 <u>使用する電気のCO<sub>2</sub>排出係数がゼロになる料金プラン。</u>

## 【でんかeプラン】

### 「でんか割」

I Hと電気給湯器の両方を設置のお客さまは、電気料金が10%おトクに！

[料金イメージ]



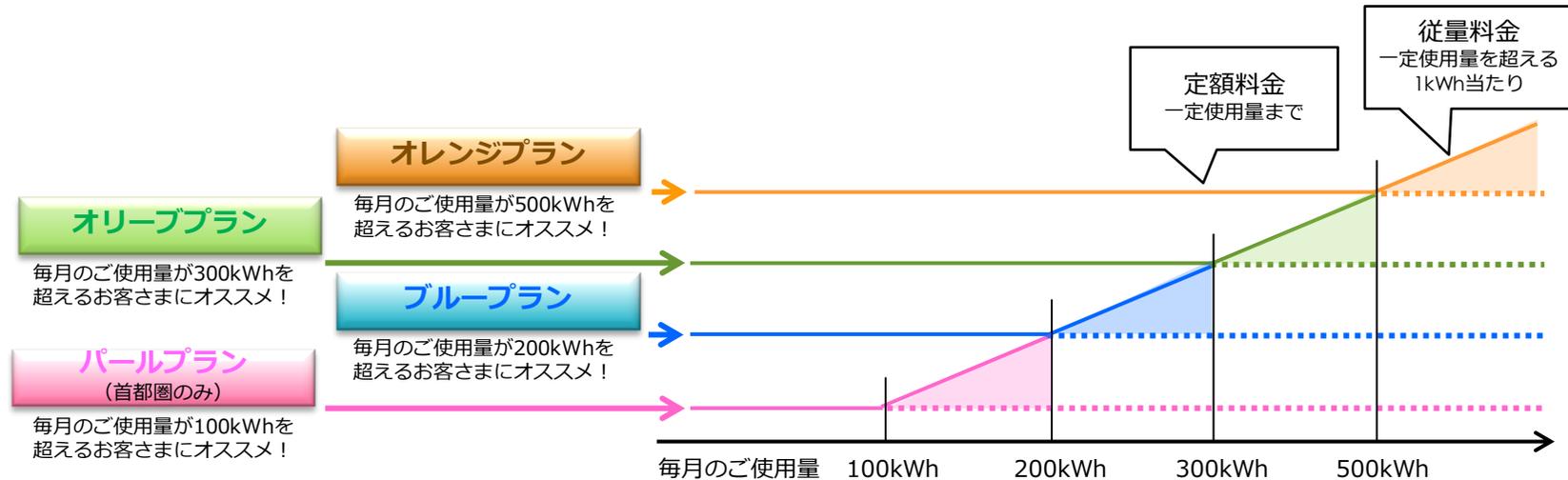
※ 料金単価は「でんか割」適用後

★いずれも、「ありがとう割引」「料金連動ポイント」の適用対象。

- ・ありがとう割引：ご契約継続期間が1年を経過するごとに、電気料金を1,032円割引。
- ・料金連動ポイント：毎月の電気料金のお支払額200円につき「1よんでんポイント」が貯まる。

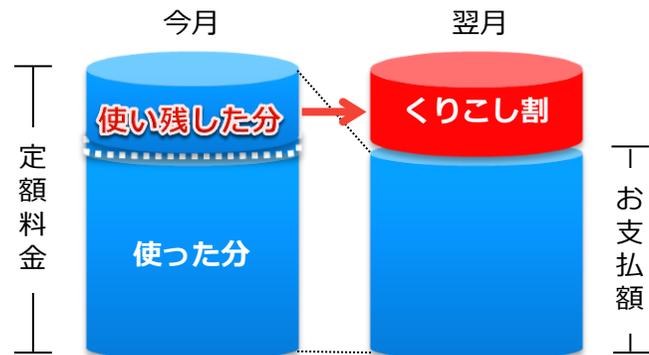
# 首都圏・関西圏における取り組み

## ご家庭向け料金プラン（首都圏・関西圏）



※料金プランに関する詳しい情報については、当社ホームページの「電気料金のご案内」（<http://www.yonden.co.jp/kouri/menu/>）をご参照ください。

### 【くりこし割】 **New!! (2018年10月1日～)**



電力業界初

定額料金に相当する電力量を下回った場合、使い残した部分の定額料金を翌月の電気料金から割引

※料金プラン毎に設定する“くりこし上限額”の範囲内

### 【四国電力のがん保険】 **New!! (2018年10月22日～)**

(首都圏のみ)

対象お客さま	「でんきの比較インズウェブ」より首都圏のご家庭向け料金プランに新規ご加入いただいた個人のお客さま
保険料	0円（当社が負担）
補償金額	がん診断時一時金として5万円
保険期間	1年間
団体契約者	当社
引受保険会社	SBI損害保険(株)

# 徹底した事業効率の改善

## 供給力の最適化

### 供給設備の安全・安定稼働

伊方発電所3号機の  
安全・安定稼働

伊方発電所3号機の  
中長期安全対策の着実な遂行

設備トラブルの  
早期発見・早期復旧

### 経年化設備への対応

坂出発電所1・2号機  
LNGコンバインドサイクル導入

西条発電所1号機  
USC（超々臨界圧機）への  
リプレース

伊方発電所  
1・2号機の廃止

高経年化した  
石油火力の休廃止

### 再生可能エネルギーの最大活用

水力発電所の出力増強

グループ大での太陽光・  
風力発電設備の導入拡大

## 業務効率の徹底改善

### 調達コストの低減

資機材調達コストの低減

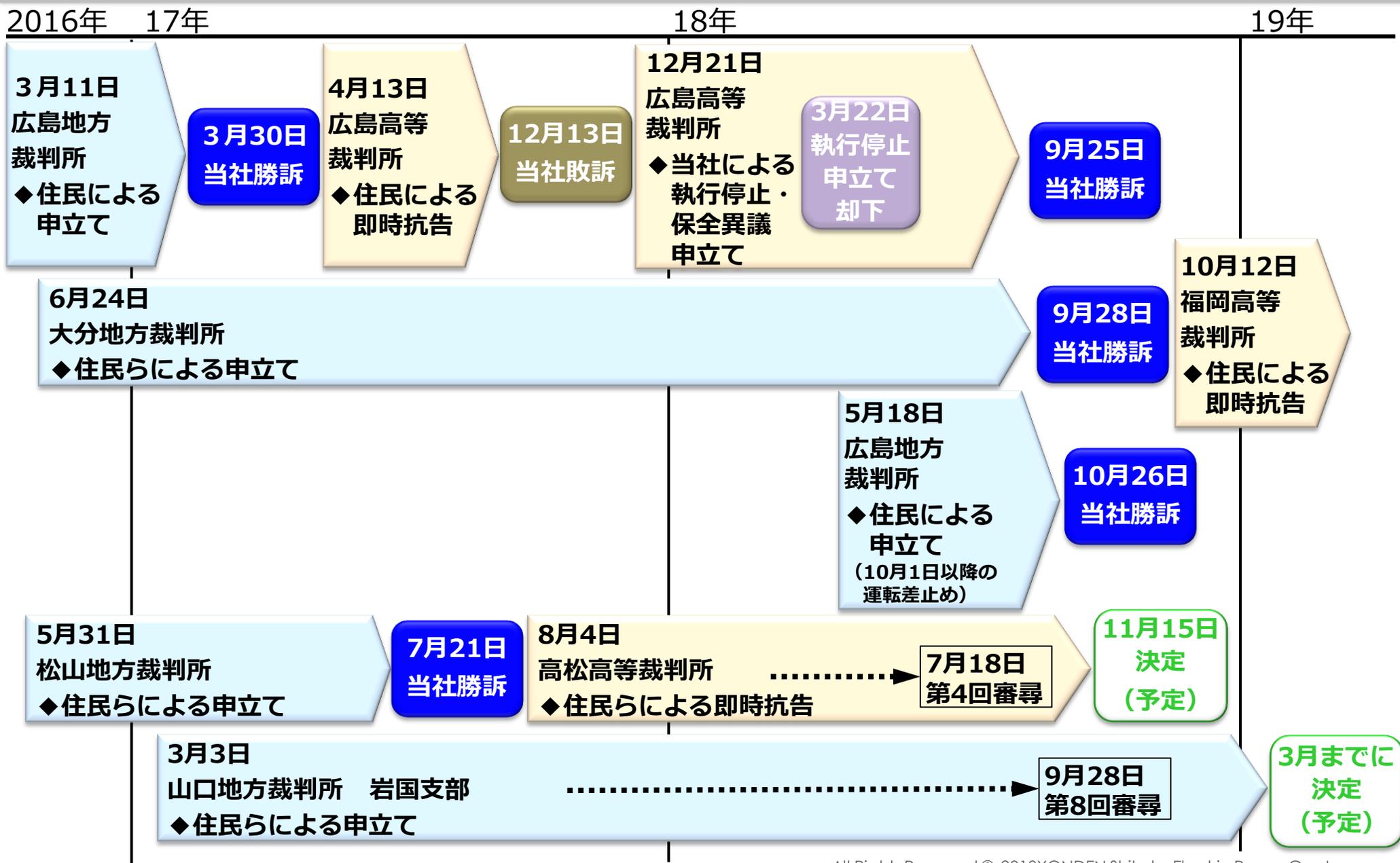
燃料調達コストの低減

### 組織基盤の強化

労働生産性のさらなる向上

環境変化に適応可能な組織体制の整備

# 伊方発電所 3号機の運転差止仮処分を巡る状況



# 火力発電所の定期検査時期延伸

## 坂出發電所 3、4号機

システムS評価取得→定期検査間隔：最大 6年

〔 2018年 1月24日：定期安全管理審査申請  
4月 5日：審査結果および評価結果受領 〕

坂出發電所 1、2号機等 他のユニット  
同様の申請準備を進め、審査を順次受審予定

修繕費の低減

実施時期の  
柔軟な設定

稼働率の向上

〈参考〉新たな安全管理検査制度における組織区分と定期検査間隔

	定期検査間隔		審査項目		
	ボイラ	蒸気タービン	継続的な 検査実施体制	運転管理	高度な運転管理
システムS	6年以内	6年以内	○	○	○
システムA	4年以内	4年以内	○	○	—
システムB	2年以内		○	—	—

### 【火力発電所の定期検査】

- 従来、ボイラは2年ごと、蒸気タービンは4年ごとに実施
- 2017年4月、電気事業法改正
  - 国の安全管理検査制度の見直し
  - 長期間の運転を行っても設備の健全性を維持できる「事業者の保安力」に応じ、事業者が柔軟に定期検査の時期を設定することが可能に。

# 再生可能エネルギーの導入拡大

## [水力発電所の出力増強計画]

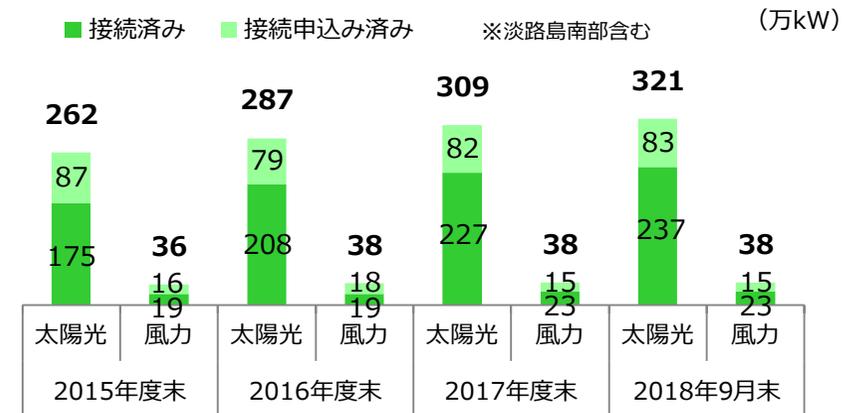
年度	発電所名	最大出力（現在 → 更新後 [計画]）
2018	吉良	2,700kW → 3,000kW
2019	面河第一	7,000kW → 7,600kW
2019	広野	35,700kW → 36,500kW
2020	伊予川	3,100kW → 3,400kW
2020	加枝	9,700kW → 9,900kW

2000年度以降、高効率水車の導入による増出力 約3万kW  
(2020年度までに運転開始を予定している計画を含む)



最新鋭の高効率水車の採用

## [四国における太陽光・風力発電の導入状況]



## [当社グループが参画する太陽光・風力発電の導入状況]



松山太陽光発電所  
(愛媛県松山市)



三崎ウインドパーク  
(愛媛県伊方町)

# 電気事業以外の分野における収益源の創出・拡充

既存事業におけるさらなる収益力の向上

情報通信事業  
における販売拡大

ガス供給事業  
における販売拡大

市場エリアの  
拡大

海外発電事業の拡充

将来の収益源となり得る新たな事業分野の開拓

ビジネス領域の  
伸長

グループ内で保有する  
技術・ノウハウ、経営資源の最大活用

他事業者とのアライアンスの積極活用

サービスの  
融合

総合エネルギー企業  
としての取り組みの拡大

ご家庭向け事業分野  
への参入

農業分野における  
取り組みの拡大

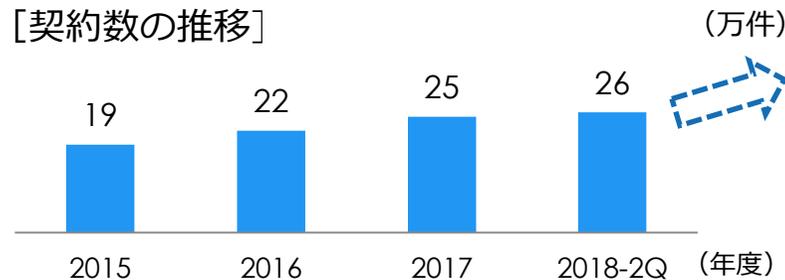
# 情報通信事業における取り組み

## 個人向け光通信サービス「**Pikara** (ピカラ)」

販売体制の強化

お客さまサポートの向上

契約数の  
拡大



## 低価格モバイルサービス「**FiiMO** (フィーモ)」

直営店舗の設置による  
お客さまとの接点拡大

プロモーション活動の強化

サービスの充実

契約獲得の  
推進

## データセンター・クラウド事業

「**Powerico** (パワリコ)」  
を中核としたデータセンター  
におけるサービス品質の向上

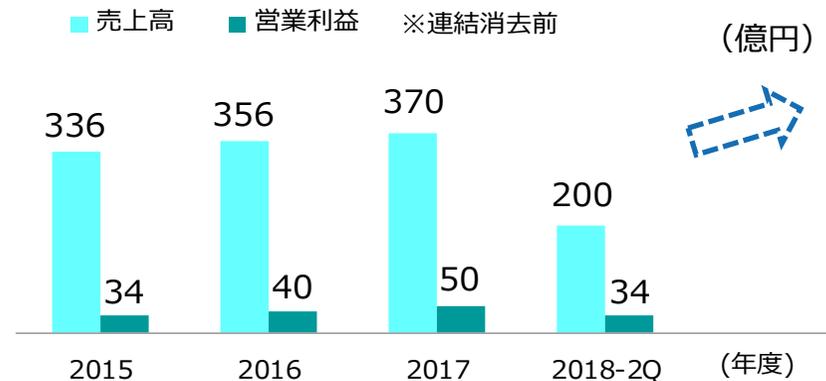
様々なニーズに対応した  
クラウドサービスの提供

顧客基盤の  
拡大



新高松データセンター  
「Powerico (パワリコ)」

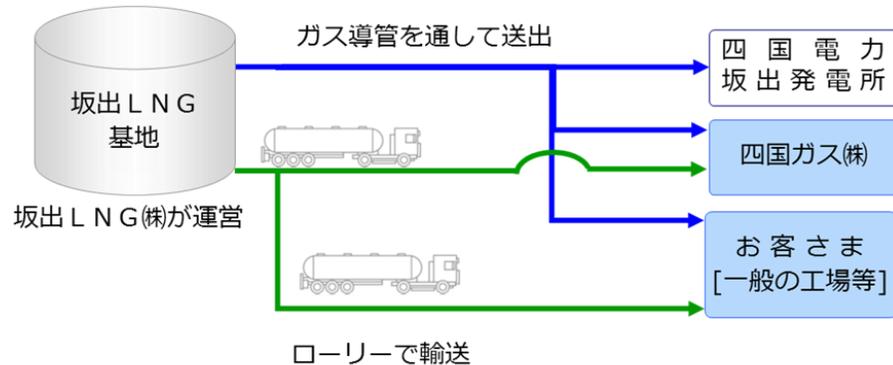
## [情報通信事業における業績の推移]



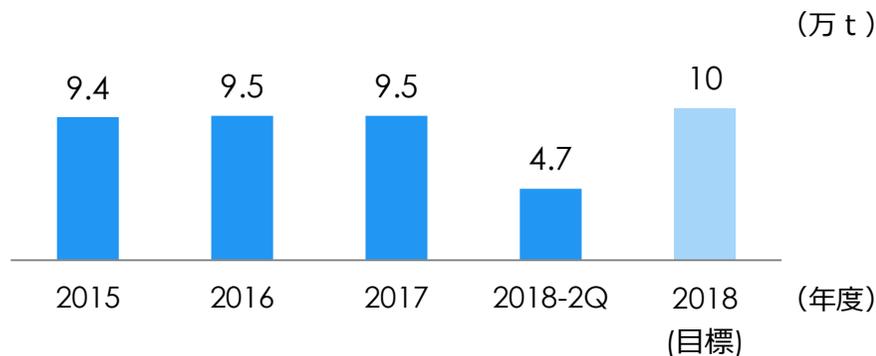
# 総合エネルギー事業分野における取り組み

## ガス供給事業

### [事業スキーム]



### [販売量の推移]



## LNG基地事業

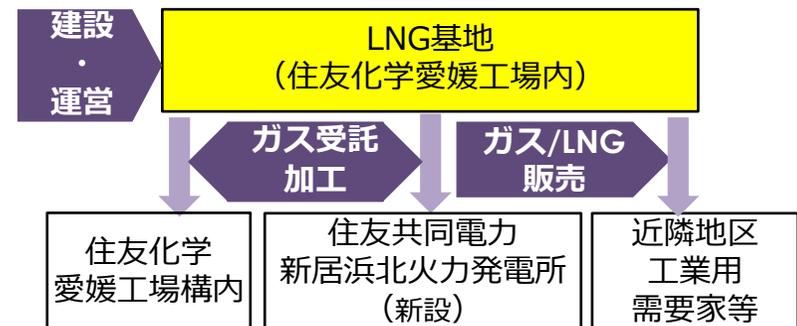
2018年4月  
東京ガスエンジニアリングソリューションズ(株)、当社、住友化学(株)、住友共同電力(株)、四国ガス(株)の5社の共同出資による合併会社「新居浜LNG(株)」を設立

2018年10月  
建設工事着工

2022年2月  
LNG基地操業開始 (予定)

2022年7月  
新居浜北火力発電所操業開始 (予定)

### [事業スキーム]



LNG基地完成予想図

# 海外事業における取り組み

## 海外発電事業

地域や発電方式など検討対象の拡大  
事業パートナーとの関係強化

2025年度の利益目標  
**40億円/年**

### サウス・フィールド・エナジー社 天然ガス火力発電事業

(米国オハイオ州：118.2万kW)

- 当社持分容量 約10万kW  
(出資割合 約8.9%)
- 発電方式 GTCC※
- 販売先 卸電力市場 (PJM)
- 共同出資者 日本政策投資銀行・昭和シェル石油、九州電力 ほか

### ラスラファンC 発電・造水プロジェクト (カタール：発電273万kW, 造水29万t/日)

- 当社持分容量 約14万kW  
(出資割合 5%)
- 発電方式 GTCC※
- 販売先 カタール電力・水公社
- 共同出資者 カタール発電・造水会社  
カタール石油公社  
エンジー、三井物産、JERA

### バルカ3 発電プロジェクト ソハール2 発電プロジェクト (オマーン：各74.4万kW)

- 当社持分容量 各 約5万kW  
(出資割合 7.15%)
- 発電方式 GTCC※
- 販売先 オマーン電力・水調達会社
- 共同出資者 エンジー、双日ほか

### ウアタコンド太陽光発電プロジェクト (チリ：9.8万kW)

- 当社持分容量 約3万kW  
(出資割合 30%)
- 販売先 卸電力市場
- 共同出資者 双日 ほか



※GTCC：ガスタービン・コンバインドサイクル発電

# 農業分野における取り組み

## イチゴの生産事業

2018年10月

(株)銀座千疋屋、(株)テンフィールド、地元イチゴ農家と当社の出資により、イチゴ“女峰”の生産事業を行う新会社「あぐりぼん株式会社」を設立

2018年12月  
生産施設建設開始  
(香川県三木町)  
(予定)

2019年12月  
初出荷 (予定)

### 〔「あぐりぼん株式会社」の概要〕

事業内容：農産物の生産・加工・販売など

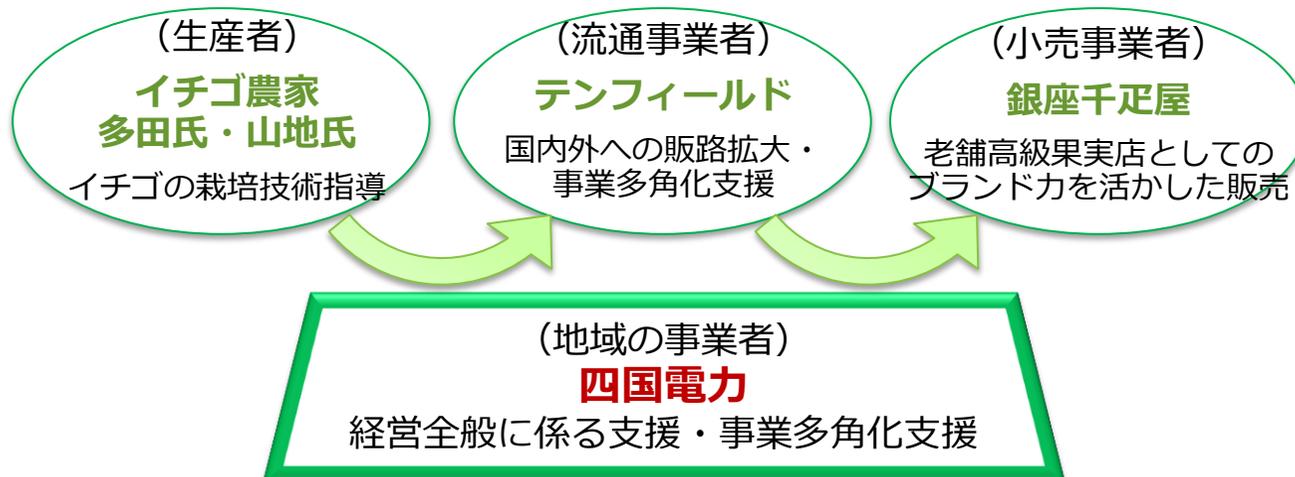
所在地：香川県木田郡三木町

資本金：5,000万円

出資比率：当社 70.0%、銀座千疋屋 20.0%、テンフィールド 9.6%  
いちご家めい※ 0.2%、山地 秀昭氏 0.2% (イチゴ農家)

※イチゴ農家 多田氏が経営する  
イチゴ生産の農業法人

### 〔事業スキーム〕



生産者・流通事業者・小売事業者と地域に根差す電力会社がパートナーとなる  
日本初の事業モデル

# 有望なベンチャー企業への出資

## (株)未来機械

太陽光発電パネル清掃  
ロボットの開発・販売を行う  
ベンチャー企業

自律型でハンディータイプの  
ソーラーパネル清掃ロボットを  
世界で初めて実用化。

2019年から、海外進出を  
本格化。

## LEシステム(株)

バナジウムレドックスフロー  
電池(VRFB)<sup>※1</sup>に用いられる  
電解液の研究開発・製造を  
行うベンチャー企業

産業廃棄物の重油燃焼煤からバ  
ナジウムを安価に回収する技術  
を開発。

茨城県つくば市でマザー  
プラントを建設中。

2020年度からの本格生産を  
目指し、福島県浪江町に、  
大型量産工場の建設を計画。

## (株)FOMM

小型電気自動車の  
企画、開発を行う  
ベンチャー企業

2014年に、世界最小クラスの  
4人乗り電気自動車を開発。  
カセット式バッテリーの搭載等、  
独創的な技術を保有。

バンコク近郊の生産工場で  
量産試作車の製造を開始。

2019年2月に、量産開始を計画。  
タイにおける超小型電気自動車の  
生産・販売を目指す。

## (株)ZenmuTech

高度な情報セキュリティ  
技術を開発し、  
関連製品を販売する  
ベンチャー企業

秘密分散技術(AONT方式)<sup>※2</sup>を  
用いた独自の技術・製品を開発。

情報セキュリティへの関心が  
高い大企業を中心に販売。

### [会社概要]

設立	2004年3月
代表者	代表取締役社長 三宅 徹
本社所在地	岡山県倉敷市
資本金	55百万円 (増資前)

2億円

### [会社概要]

設立	2011年1月
代表者	代表取締役 佐藤 純一
本社所在地	福岡県久留米市
資本金等	6.3億円 (増資前)

2億円

### [会社概要]

設立	2013年2月
代表者	代表取締役社長 鶴巻 日出夫
本社所在地	神奈川県川崎市
資本金	24.1億円 (増資後)

3億円

### [会社概要]

設立	2014年3月
代表者	代表取締役社長 田口 善一
本社所在地	東京都品川区
資本金等	1.2億円 (増資前)

2億円

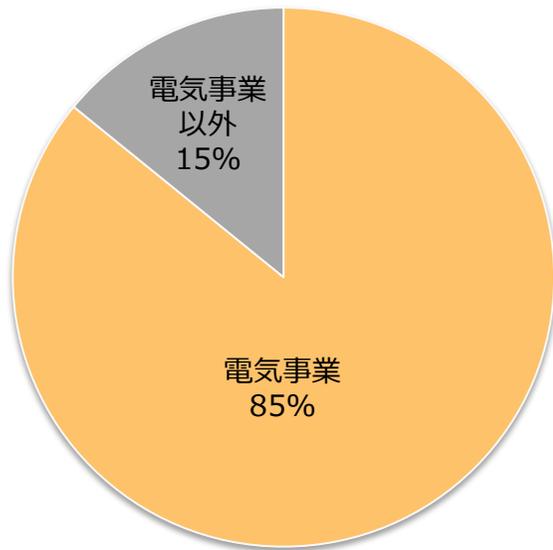
四国電力

※1：レドックスフロー電池（Redox-Flow Battery、RFB）は、電解液をポンプ循環し、酸化還元反応を進行させて充放電を行う電池。大容量化・長寿命化が可能であり、発火性の材料を用いないことや常温運転が可能なことから安全性も高い。レドックスは、還元（reduction）と酸化（oxidation）を組み合わせた造語。電解液にバナジウムを使用するのがVRFB。

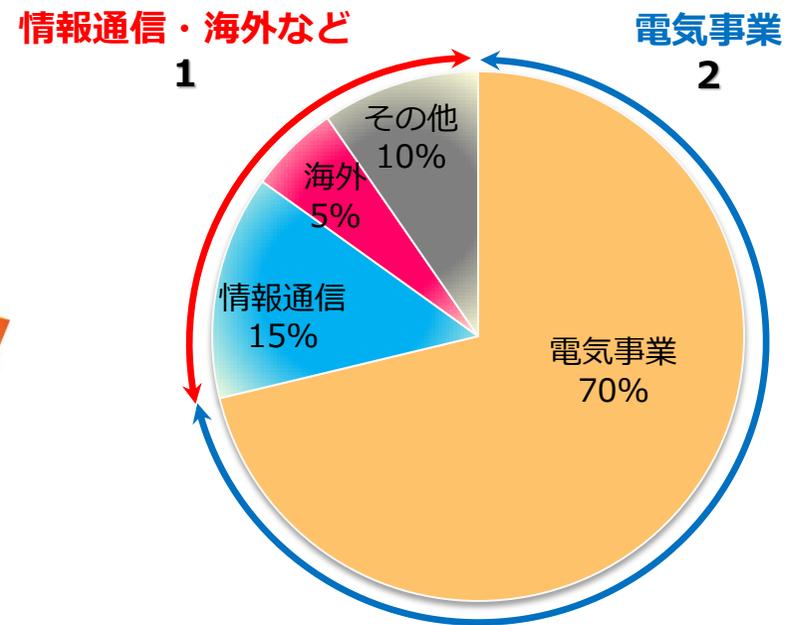
※2：秘密分散技術とは、一つのデータを所定の符号化手法により複数の「分散片」に変換し無意味化する技術。

# セグメント別利益目標

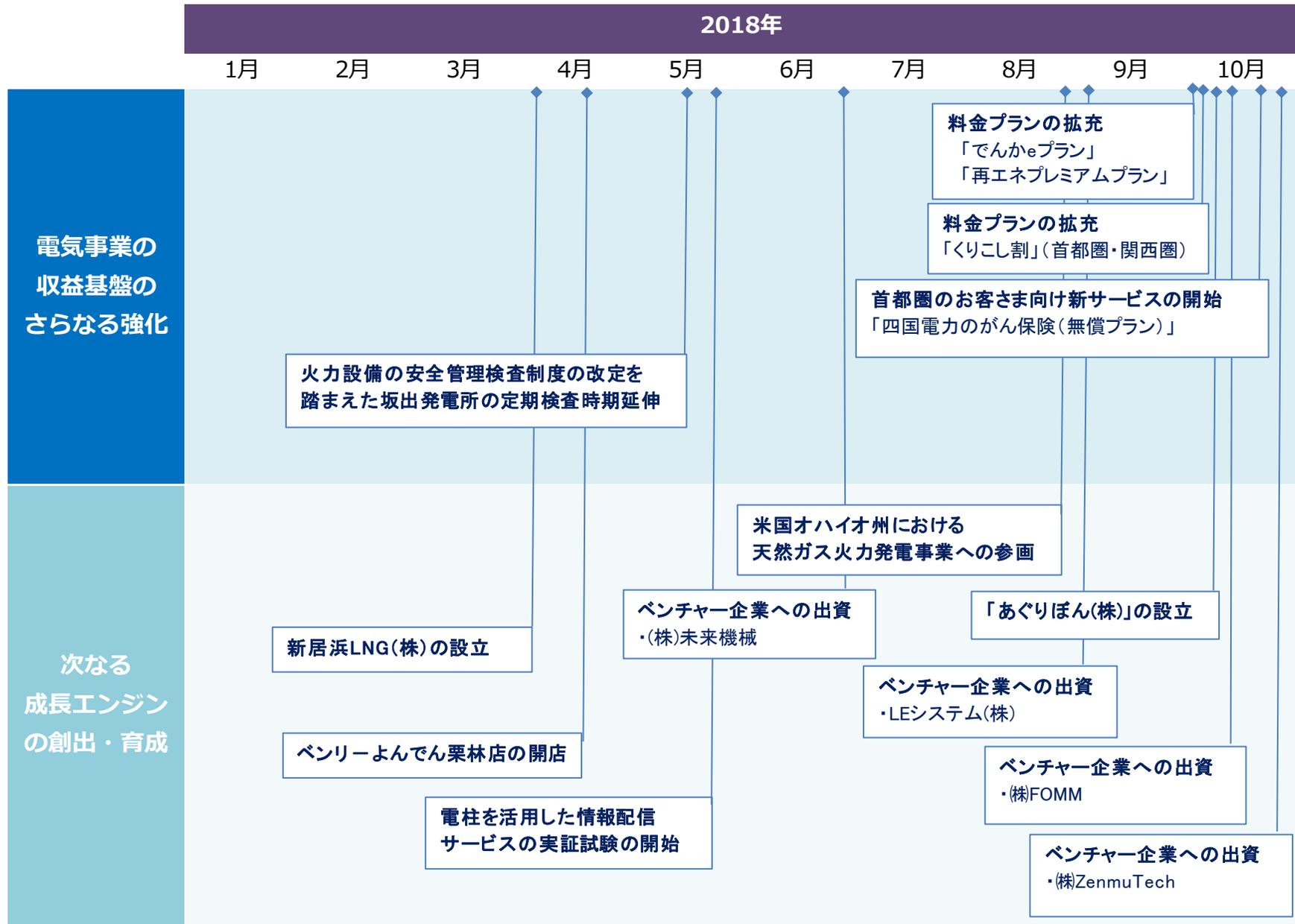
東日本大震災前



2020年度目標



# <参考> 主な取り組み状況



#### おことわり

本プレゼンテーションに含まれている業績見通し、将来の予測に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社で判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

実際の業績等につきましては、様々な要因により、記載されている見通し等とは異なる場合がありうることをご承知おきください。

なお、実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く経済・社会情勢、エネルギー政策や電気事業制度、原子力規制の変更、競争の進展、気温変動等の気象状況、急速な為替や燃料価格の変動などがあります。

しあわせのチカラになりたい。



四国電力株式会社